

第1回「安曇野の自然まるわかり観察会」

【日時】7月1日（土） 9：30～11：30

【場所】碌山公園研成ホール 学習室1 安曇野市穂高 5613-1

【テーマ】アオサギのコロニーと三角島の自然

【講師】植松晃岳さん（野生生物資料情報室代表）

藤井利衣子さん（伊那谷自然友の会）

【参加人数】30名（大人 23名、子ども 7名）

【事務局スタッフ】藤森、平沢、中村、市川

【内容】

「アオサギのコロニーと三角島の自然」をテーマに、安曇野市穂高地域の三角島で観察会を行う予定でしたが、雨天のため、同地域の碌山公園研成ホールにて屋内講座を実施しました。

最初に藤井先生さんから、三角島の成り立ちと三角島の植物についてのお話を聞きました。三角島は高瀬川、穂高川、犀川が集まる「三川合流」の地にある中州です。昔は大雨のたびに洪水となり、このあたりは高い木がなかなか生えない場所でした。昭和になってダムや堤防が建設されると川が安定し、今は河原にも木が生い茂っています。三角島も、河原に多く生えるヤナギの仲間やハンノキなどを中心に林ができ、他にもさまざまな木や草が見られるようになりました。

次に植松先生から、アオサギについてのお話を聞きました。三角島のアオサギのコロニー（集団営巣地）は、ゴイサギと合わせて200以上の巣があり、県内でも最大級の規模です。安曇野市では1980年ころからアオサギのコロニーが見られるようになり、以前は市内何か所かにありましたが、今では三角島が市内唯一のコロニーになっています。アオサギの大きなコロニーは、ふん害や騒音、農業・漁業被害などのため、近くの住民や業者にとって迷惑になることもありますが、自然環境が豊かだということの証でもあるそうです。つまり三角島は、コロニーを作る林があり、さらに周辺の水辺でたやすく餌をとることができる条件の整った場所なのです。巣をかけるのを妨害したり、音を出したりしてコロニーを追い払っても、どこか別の場所でコロニーが作られることになるかもしれません。三角島の自然、アオサギのコロニーはこれからどのように変わっていくのでしょうか。昔は飛来しなかった白鳥についてのお話も聞き、人間と自然の関わりについても考えました。

最後に三角島ふるさとの森プロジェクトの活動紹介もありました。ぜひ実際に現地へ足を運び、アオサギや三角島の自然を楽しく観察してみてください。



植松先生のお話



熱心にお話を聞く参加者

第2回「安曇野の自然まるわかり観察会」

【日時】8月19日（土） 18：30～20：30

【場所】長野県烏川溪谷緑地 安曇野市堀金烏川26

【テーマ】あかりに集まる昆虫と夜のケモノたち

【講師】中田信好さん（田淵行男記念館こども自然観察教室「むしの会」会長）

百瀬 剛さん（株式会社BO-GA）

【参加人数】33名（大人16名、子ども17名）

【事務局スタッフ】藤森、中村、藤井

【内容】

「あかりに集まる昆虫と夜のケモノたち」をテーマに、安曇野市堀金地域の烏川溪谷緑地で、座学と野外での観察を行いました。

最初は室内で、百瀬さんから、センサーカメラに写ったケモノたちの写真が紹介されました。センサーカメラとは、カメラの前を通った生き物の体温を検知して自動撮影するカメラで、生き物調査によく使われます。約1週間烏川溪谷に設置したセンサーカメラには、イノシシ、ニホンザル、テン、ハクビシン、ネズミの仲間などの、主に夜の姿が写っていました。昼間はなかなか会うことは難しいようですが、烏川溪谷緑地にはこのようにたくさんのケモノたちがすんでいることを教えていただきました。

次に中田先生と、ライトトラップに集まった昆虫を観察しました。ライトトラップとは、昆虫があかりに集まる性質を利用して、ライトと白布でおびき寄せるものです。「毒をもった昆虫もいるので、長袖を着て首にタオルを巻きましょう」という注意を受けてから、事務所を出て外に設置したライトトラップに向かいました。1時間ほど前から点灯していたライトトラップに、徐々に昆虫が集まってきています。多くは蛾で、シロヒトリ、スズメガ、カクモンキシタバ、キドクガ、マエアカスカシノメイガなど10種類以上が見られました。中でも、大きくて美しいオオミズアオが人気でした。蛾は5,000～6,000種類もいて蝶よりもずっと種類が多く、コケ、枯葉、針葉樹など食性が多様で、興味深い昆虫だということです。蛾のほかにも、ゴマダラカミキリ、ホシウスバカゲロウ、カブトムシ、カメムシの仲間、コガネムシの仲間なども観察できました。中田先生はライトトラップに集まった昆虫それぞれについて、名前だけでなく名前の由来や生態についても、とても詳しく教えてくださいました。

この観察会で、烏川溪谷にくらす昆虫やケモノたちについて知ることができ、親しみがわきました。



センサーカメラに写ったケモノたちのクイズ



ライトトラップに集まった昆虫の観察

第3回「安曇野の自然まるわかり観察会」

【日時】10月21日（土） 8：30～13：00

【場所】三郷スカイライン・烏川林道

【テーマ】バスで巡る安曇野の森～里から奥山まで～

【講師】松田貴子さん（安曇野市豊科郷土博物館）

【参加人数】17名（大人16名、子ども1名）

【事務局スタッフ】藤森、中村、百瀬、藤井

【内容】

「バスで巡る安曇野の森」をテーマに、安曇野市三郷地域の三郷スカイライン（植林が多い人工の森）と堀金地域の烏川林道（天然に近い森）をバスで走りながら、森を観察しました。三郷に向かうバスの車中では、日本全体からみた安曇野市の植生の位置づけや、標高に応じて森の様子が変化することなどを教えていただきました。

〈三郷スカイライン〉

まずはふもとでヒノキ、スギ、カラマツ、アカマツの4種類の針葉樹の特徴の観察です。それぞれの樹は姿形の違いのほか、地形や水分条件などによって生えている場所も違うそうです。説明のあとバスに乗り、車窓からそれぞれの林の違いを観察していきました。途中の明るい場所では、つる植物で覆われたマント群落を観察しました。標高によって種類が変わるコナラとミズナラの見分け方や、チヂミザサやミズヒキなど、道ばたの草花も観察しました。

〈烏川林道〉

烏川林道沿いは、天然に近い林が残されています。須砂渡の溪流沿いには溪畔林があり、フサザクラやトチノキ、カツラなど、湿った場所に特徴的な植物を観察しました。黄葉が見事なカツラの大木の周りでは、甘い香りが漂っていました。途中、延命水を試飲して、さらに標高を上げていきます。コナラやミズナラの林は天然林にみえますが、実は薪や炭をつくるために利用されていた林だそうです。林道終点の三股は、常念岳と蝶ヶ岳への登山口。付近を散策して、ブナの木を観察しました。ブナはもともと広く分布していたそうですが、利用価値が乏しい樹木として別の樹種に換えられていったため、今は大変少ないとのこと。種数としての生物の多様性はそれほど高くないそうですが、ブナのまとまった林は貴重な植生として保全が必要とのことでした。

松田先生は、森や樹木だけでなく草花にもお詳しく、イラストなどを交えて分かりやすく教えていただきました。専門的なことも含めて、市内の森の様子がよく分かりました。



三郷スカイラインでマント群落を観察



烏川林道終点、三股登山口付近を散策